



# 神宮前だより

## 北極星に思いを馳せて

副校長 木村 順子

いよいよ本格的な夏を迎えようとしていきます。夜空の星を眺めると、二つの曲を思い出します。まずは小学生の夏、「ささの葉さらさら」お星様さらさら空から見てる

と、大きな声で歌えば短冊に書いた願いが叶うと思込んで必死に歌っていた「七夕さま」。この季節になると、折り紙や短冊で飾った笹竹を家族で海に流しに行った思い出がよみがえります。もう一曲は、声楽を志していた高校時代、多くの歌劇を作曲したジュゼッペ・ヴェルディの作品「ひとつの星に(アド ウナ ステツラ)」という曲です。こちらはそれほど有名ではないイタリア歌曲ですが、私はなぜかこの曲のもっている、力強く流麗な響きとスケールに引き込まれていました。

洋の東西を問わず、古来より北半球に住む人々にとって、北の空にきらめく北極星は、天空にあっ

て不動であるため、旅する人々に自分のいる位置を知る道しるべとしての役割や、自己の目指す方位の象徴となりました。北斗七星やカシオペア座から北極星を見つけると、いつも北の方角で輝き、周りの星々は、北極星を中心に回っているように見えます。

さて、昨今において「生成AI(人工知能)」は、天空における「北極星」のように、連日、話題の中心となつていきます。六月二十二日にインドで開かれた主要20か国によるG20教育相会合で、「教育システムを向上させると同時に課題でもある」と明記され、骨子案が打ち出されました。そこでは、「質の高い教育の実現に向けて連携することやジェンダーに配慮した教育の提供を重視すること、教育や学習で対面とデジタルを組み合わせ、児童・生徒らがデジタルを活用するための能力を向上させる機会を確保する方針が挙げられています。一方で生成AIを巡っては、論文や読書感想文などが瞬時に作成されるため、学習における

思考力・判断力・表現力への悪影響が懸念され、負の側面にも対応していくべきだとの考えが示されています。さらに文科省からも、「著作権侵害につながるような指導」、「性質や限界、メリット・デメリットを事前に学んでいるか」等の学校向け指針の原案が公表されました。

本校では保護者の皆様からの御理解・御協力のもと、児童による毎日の「心の天気」の入力、教科の特性や場面に応じたタブレットの活用が定着しつつあります。幸いにして、チームズをはじめ、ワシントン、オクリンク…と機能が豊富にあり、その中から必要な最適解を模索しています。教員も子供たちも日々使ってみて初めて発見することの連続です。今後未知なるものへの挑戦は続きますが、学びの進行途中であるプロセスに楽しみを見いだしながら、個別最適な学びを、児童と共に探究していきます。時には星空を眺めながら。



### 七月の目標

#### 【生活指導】

身の回りの整理整頓をしよう

#### 【保健目標】

夏を健康に過ごそう

#### 【給食目標】

正しい姿勢で、上手な食べ方をしよう